

第4回  
河内長野市の学校における  
食育及び  
中学校給食調査検討会議

平成22年 2月

河内長野市中学校給食調査検討委員会

# 式 次 第

## 開 会

### 1. 調査・検討

食育について

<食育の推進及び進め方について>

学校給食について

<中学校給食（選択性の弁当給食）について>

資料

- ・「スクールランチ」事業（新聞記事より）
- ・吹田市の中学校給食（概要）
- ・茨木市の中学校ランチ事業について
- ・高槻市の中学校スクールランチについて

## 第4回河内長野市の学校における食育及び 中学校給食調査検討委員会議事録（要約）

日時 平成22年2月4日(木) 午後3時

### ○事務局

定刻となりましたので、ただいまより、第4回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会を開催させていただきます。

それでは、議事進行を議長であります委員長、よろしくお願いします。

### ○委員長

皆さんこんにちは。

それでは、第4回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会を開催いたします。

食育に関連して、少しお話します。近年、みかんが売れなくなってきているという話を聞きました。その原因は、「みかんの皮を剥くのが面倒である」という理由からです。夏にはスイカも売れなくなってきているという話です。その原因は、「スイカを切るのが面倒である」、「家に包丁がない」そして「食べ終わった後のスイカを生ゴミとして捨てるのが面倒くさい」ということです。食育を進める時に「面倒くさいと思わない」ことが大事だと思います。

自分の子どもに弁当を作ることが面倒くさいと思う親も増えてきています。

食育について、第1回、2回、3回と会議を行い、本日を含めて、あと3回となりましたので、そろそろまとめに入りたいと思います。今までに皆様からいただいた意見を事務局の方でまとめていますので、それを見ながら、「食育の進め方及び推進について」を議題といたします。

食育に関して、みなさん何かご意見がございませんでしょうか。

### ○委員

今、委員長が言われた「面倒くさい」ということに関連しまして、子供達の将来はどうなるのかなあという危機感を持っております。何を感じて、今後どんな風に育て、大人になっていくのかなあと考えた時に、食育で現状を変えていかなければならないことがいっぱいあると思います。

前にもお話しましたが、私が子育てしていた時期に、教師をしながら、しんどい思いをして、子供の弁当を作っていました。なぜそのような力が出たのかと考えたときに、私の母親が私たちを一生懸命育ててくれた姿を見ていたから、自分が親になったときに、自分の子供にもそのようにしなければならないことを当たり前のように感じていたからだと思います。

今は生活がすごく便利になって、簡単にコンビニで食物を買うことができるようになりました。朝ごはんを食べずに学校へ来る子供が多くおり、食べて学校へ来る子どもでも、朝ごはんにはケーキとお茶を飲んだとか、スナック菓子を朝ごはんにしているとか、栄養面を考えると、そのような朝ごはんばかりを食べていると、子供の成人病の低年齢化が進んでしまいます。

学力低下も言われますが、ひょっとしたら、乱れた食生活の影響によって集中力が出ないためではないかと思えます。

子供も大人の影響で、不規則な生活になったため、バランスが狂って、体にも良くない、学力面でも良くない、そして一番大事な心が育っていないと感じます。生活全体を見直す意味において、食育を考えていかなければならないと思えます。生活習慣を見直し、栄養のバランスはもちろんですが、家族とのつながりであるとか、親が子供の食事に手間をかけることによって、子供が感謝する気持ちを育てていかなければならないと考えます。

豊かに暮らしているように見えますが、心はものすごく寂しい子供達を見てみると、何とかしなければならぬと思えます。

生活全体を見直す意味において、食育は大事だと思えます。

○委員長

新たに学力の面、心の面を言っていました。

大阪府教委が学力トップの秋田県を調査した結果、全国上位の県が秋田県、富山県、福井県、石川県、新潟県でありまして、なぜ学力が高いかの理由は、一生懸命勉強するからです。

公表されている大阪府の結果では、大阪に限らず、町の子供は、早く寝ない、そして朝起きるのが遅いため、食べる時間がないから朝食を食べずに学校へ行く子供が多い。その調査の中で指摘された学力が低い原因は、「朝食を食べないため、朝から集中力が出ない」そして「勉強しない」などです。

学力を高めるためには、早寝、早起き、朝ごはんを子供達に推奨しなければならぬ。

先ほど、委員さんが言われたように、朝ごはんを食べずに学校へ来る子供達が多くなっているとか、朝ごはんがスナック菓子であるとかということでしたが、この5年ないし10年の間にそういう傾向になってきたのですか。

○委員

10年前からそういう状況に変わってきています。

○委員長

では、みなさんにご意見をお願いします。

○委員

委員さんが言われたとおりです。

特に中学生の生活から見直していかなければならないと思います。

先日、小学校の校長先生との話の中で、その小学校の高学年を対象にして、食育に関するアンケートを取った結果が、「何時頃に夕飯を食べますか」という質問に対して「10時以降」と答えた生徒が全体の30%いました。

その結果を詳しく調査した結果、親の生活がそういうふうになっているから、改善できないという課題が残りました。やはり食育を見直すとなったら、生活全般を見直さなければなりません。そうすると、親の生活サイクルを見直さなければなりません。それは大変な問題であります。だから、できる所から改善していかなければならないと考えます。

○委員長

委員どうですか。

○委員

私には食べ盛りの中学生の息子がいます。子育てはなかなか難しいです。子供は食べることを楽しみにしています。食べることは大事なことです。

○委員長

委員どうですか。

○委員

何かの本で読んだのですが、スーパーで主婦を集めるには、冷凍食品と菓子パンの特売セールをすることだということです。先ほどの「みかん」と「スイカ」の話と関連して、主婦は面倒くさいことを嫌って、簡便な方に行く。

冷凍食品と菓子パンの包装袋の裏面を見ると、食品添加物とか薬品などの記載があり、微量であっても、そういう物が子供達の体内に入って、そして蓄積されて、そのことによってどのような悪い影響を体に及ぼすかがわからないから、非常に恐ろしいことだと思います。

先ほど委員が言われたように、体に悪い影響を及ぼすことによって、子供達が切れたり、学力低下につながったりするのではないかと思います。

それを変えるためには、企業側も変わらなければならないし、主婦の考え方も変わらなければならないし、世の中全体の問題になると思います。

○委員長

委員お願いします。

○委員

前回も言ったのですが、子供が親に何を望んでいるかと考えます。「給食をしてほしい」あるいは「弁当を作ってほしい」などのいろんな意見を子供は持っていると思います。そこで親の役割とは何かを考えます。仕事を持つ女性もおられるし、あるいは男性でも弁当を作る親もおられるし、そして仕事を持った大人がかなり多くなってきているので、子供は親の姿から何を学んでいるのかと考えます。先ほど言

われました「子供が将来大人になっていく姿」は私たちが作る姿ですが、その姿をどのように作っていったらいいのかを真剣に考えなければならない。今、私が学校でやっているのは、親への支援と子供自身が自立して自分の食べ物を作ることができるような意欲を持つことができるような視点に立って、食育をしています。そのことは非常に難しいことです。

#### ○副委員長

先ほど委員長が言われた話の中で、大阪府と秋田県の学力の差についてですが、その差は単に数字の差だけでなく、親の生活の中身を比べれば差があると思います。親をみて、子供が育つのですが、基本は親の生活です。秋田県の親はどんな生活をしているのか見なければならないと思います。

今の若いお母さんは何故生活において手を抜いて楽な方向へ行くのかなと思います。その若いお母さんの母親は私と同じ世代であり、その母親は親が一生懸命子育てをしてきたのを見ているのに何故そのようなことになるのかなと思います。背景には社会及び地域に改善すべき大きな問題があるのではないかと思います。

#### ○委員長

ありがとうございます。皆さんからいろんな角度からご意見をいただき、また新しいことを発見しました。

食育の話で意見が出尽くしたようですので、まとめに入るのに良い時機だと思います。

なお、食育の第3回目（食育の推進及び充実）の会議資料で事務局がまとめているので、それを基にして皆さんのほうで付け加えていただいて、私のほうで方向付けをしたいと思います。

食育の推進については、中学校においても食に関する指導に係る全体計画を作成していただきたい。その際には、学校長のリーダーシップのもとに関係職員が連携・協力しながら組織的な取組を進めていただきたい。

計画の内容については、各学年における年間にわたる指導と各教科における指導内容を整理し、各教職員の役割と相互の連携を明確にしていきたい。

食に関する指導の展開については、食に関する指導の基本的な考え方、指導方針等を明確にしていきたい。

食に関する指導の展開について、このようにまとめましたが、いかがでしょうか。

#### ○委員

小学校では、食の指導の時間数は決まっていません。

食の指導は中学校ではなじまないと思います。

小学校では、その視点をかなり持った教員がいなくなかなか難しいです。

私は養護教諭ですが、食の指導をしなければならないということではないのです。学校での推進役はそれぞれのポジションですが、食の指導が必要であると思う教

員がいるかいないかによって、大きく違いが出ると思います。

確かに大阪府からいろいろな食育の計画に関する文書が下りてきますが、総合の中とか生活科などの教科に関連づけて、どの教科の中でするかを決めるとなれば、それぞれの教科の時間数もぎりぎり、そして切羽詰っていることもあり、その教科を受け持つ教員から賛同を得られない。

食育の推進は大事ですが、ひとりの教員がその必要性を言っても、教員会議ではなかなか通らないから、市のほうで学校の中で食育を進めるためのバックアップをお願いしたい。

○副委員長

河内長野市内の学校では統一されていないのですか。

○委員

それはないです。

国から、いろんな文書が学校に下りてきますが、河内長野市立の学校では、食の指導に関するカリキュラムはないです。

○委員長

前に先生がレポート発表して下さったように、各学校で取り組んでおられるのですか。

○委員

各学校でそれぞれに取り組んでおられると思います。

この会議で食育の必要性についての意見が強くなるのであれば、市のほうで何かバックアップしていただければ、すごく動きやすいと思います。

○委員長

各学校でも、このことに関心がなくても、この話がきっかけで、輪が広がり、いろいろなアイデアを出していただける方がたぶん多くおられると思います。

中学校ではそのような動きはありますか。

○委員

中学校全体において一気に取り組むというのは難しい。たとえば PTA の会合などにおいて、長期間に亘って、じわじわと広げていくということになります。

○委員長

食育を軸にして、次回までに食育で大切なものを事務局のほうでまとめをお願いしますか。

○事務局

はい、わかりました。

○委員長

それでは、次の議題の学校給食に移らせていただきます。

事務局より、資料が出されていますので、それについて、説明を求めます。

## ○事務局

それでは、第4回の会議資料をお願いします。

これは、第3回の会議時に近年の学校給食の実態で少しお話をさせていただいた選択性の弁当（スクールランチ事業）の新聞記事です。

スクールランチ事業は、費用が余りかからず、バランスの良い食事を栄養士が考え、一食あたりの価格が安く、また、生徒からすれば家庭からの弁当・パン等だったものが、スクールランチが増えたことにより昼食の選択肢が広まり喜ばれています。

この事業を実施するにあたり大阪府は補助金を出しております。

府内では、記事にもありますように、吹田市・高槻市・茨木市を始めとする市町村で実施しています。よって、どのような事業なのかを知っていただくために、吹田市・高槻市・茨木市のホームページから抜粋したものを資料として、記事の次に付けております。

（大阪府のスクールランチ事業等について説明する）

## ○委員長

今、事務局より、説明がありましたが、これについてなにかご質問等ございませんか。

大阪府の中学校給食実施率が8%で、全国で最下位であったのですが、大阪市の中学校20校が学校給食を廃止したため、6%まで下がった。今、約10%に上がってきた。

このような記事によって、大阪府知事が推進しているスクールランチ事業に水を差すことになる。

去年、私は大阪府公立中学校スクールランチ等推進協議会の担当をさせていただきました。そのため、私の所にマスコミの取材が来るのですが、今大阪府が進めているスクールランチについてどうなるのかを確かめる意図が取材での質問の奥に見えます。

その取材において、給食を望んでいる親たちがいて、そして給食により、助かる子供がいるということと食育をあわせて私は話をしています。

そして、これを機会に、子供達に食の大切さを教えていければいいと思います。私は話しています。

それでこういう記事があるわけです。この記事に関して、お気づきのことがございましたら、どうぞお願いします。

中学校給食を実施する方向性の前提も含めて、食育からの観点、生徒からの観点、保護者からの観点、行政からの観点、学校運営からの観点、いろんな角度から、いろんな立場でお気づきのことがございましたら、お願いします。



○委員

大阪の学力が低いという話がありましたが、お弁当に手間をかけることによって、学力がアップするとは限らない。

私は基本的に普通の家庭であれば、給食であっても、弁当であっても、関係ないと思います。

親が給食を希望する理由は、簡単な理由ですが、温かい物を食べさせてあげることができ、栄養面を考慮しているからです。

○委員長

弁当と給食との比較ではなくて、結果的には、給食によって、栄養のバランスのとれた物を食べることができ、弁当を作ってもらえない家庭の子供にとってプラスになるという話であったと思います。

○委員

私は主婦ですので、息子以外の中学生がどんな弁当を持ってきているのか知りません。お母さんは弁当に手間をかけていると聞きますが、今までの話の流れでは、今のお母さんが弁当に手間をかけているのかなあというのが私の感想です。お弁当のおかずとして冷凍食品がよく売れています。冷凍食品に含まれる食品添加物とか薬品が微量であっても、育ち盛りの子供に、そういう物が子供達の体内に入ることによってどのような悪い影響を体に及ぼすかがわからないから、非常に恐ろしいことだと思います。

今小学校の給食の献立委員をさせていただいています。給食には地産地消の食材を使い、カレールーなども手作りのものが多いです。

お弁当だと毎日のおかずがワンパターンになり、栄養面でも偏ったりします。子供の持って帰ってくる献立表を見ると、季節感に富んでいますし、非常に優れたメニューだと思います。

広い目で見て、残飯の問題などがありますが、いろんな家庭の子供がいるので、中学生の昼食だけでも栄養のバランスが取れた給食をしたほうが良いと思います。

○委員長

今、委員が小学校の給食の献立委員をしておられる立場から、大きな目で見たら、冷凍食品を使うことからして、家庭の弁当が決して最高であると言えないということでした。

○委員

手作りのお弁当を作っているお母さんもおられるので、見比べることはできませんが、スーパーなどに行くとたくさん冷凍食品を買い込むお母さんがおられます。そして、子供の体のことを考えておられるのかなあと思います。

○委員長

今のお話で、給食の必要性を感じ取りました。

## ○委員

私の中学校では、昼食をクラス全員で一緒に食べる時間が15分間です。早く食べ終わって外に遊びに行く子供もおり、ゆっくり食べながら団欒する子供もおります。子供自身の食べるペースがあり、給食のように準備して、片付けるということが中学生の場合ではどのようになるのかなと思います。昼休みの時間は25分間でして、その時間内で、遊んだり、お話しをしたりして楽しんでいます。

お弁当はこの時間内で、すぐ食べることができて、適していると思います。

この記事の中で、「葛城中学ではカラー印刷したメニューの配布のほか、保護者に呼びかけた」ということが載っていますが、利用率が悪かったため、呼びかけたとなっていますが、そこまでする必要性はないという感想を持ちました。

## ○委員長

委員どうでしょうか。

## ○委員

先ほど言われたことは非常にむずかしいことですね。

個人的な意見ですが、食事は子供の体を作るためものですから、自分でお弁当を作りたいと思います。

親として何ができるのか、食べるものぐらひは自分で作りたいと思います。

弁当を作ることは「親育て」であると思います。

小学校の林間学舎などで、子供達が持ってくる弁当を見ていると、今のお母さんはがんばってきちんとした手作りの弁当を作っておられます。

前回も言ったように、作ることができない家庭に対して、福祉的な支援はいると思います。

## ○委員長

委員どうぞお願いします。

## ○委員

学校給食の良さも分かります。栄養バランスなどもきちんと計算されています。

この記事の中を読むと、スクールランチの利用率が低く、不評の原因のひとつは、好きなものが入っていないということですが、給食も同様に好きなものが入っていません。

食育に戻りますが、委員が言われたように、子供自身が食に関心を持たせなければならぬと思います。親に作ってもらっただけでなく、自分で考えて作る子供に育てなければならぬと思います。

中学校では生徒ひとりひとりの嗜好が多様であり、小学校と同じようにみんなが同一のものを食べる給食が中学校でもできるのかなあとと思います。

理想を言えば、給食を必要とする子供にはうまく選択できて、また、自分でお弁当を作ったりする子供もいてもいいのかなあとと思います。

河内長野市周辺で中学校給食を実施している市があります。そして当市が遅れていると言われますが、遅れているという捉え方ではなく、先に実施している市の状況を見た上で、河内長野市らしい何かいいやり方が見つかるのではないかと思います。

○委員長

もし実施するとしたら、河内長野市なりの良さを発揮するような中学校給食ができればいいなということが、この会議がスタートしたときの着想です。

全国で、中学校給食が進んでいる市は越前市です。前の市長さんも給食に賛成であり、現職の市長さんも前の市長さんの給食より満足できるそしておいしい給食をすることを公約にして当選した。

いろんな新聞記事を読んでいますと、中学校給食を進める上で、課題を乗り越えるため、多少中学生の好みに合うよう工夫する必要があると感じました。

完全給食の所は別として、全国では、越前市の中学校給食のように選択式の給食を実施している市町村が多い。

○委員長

委員どうしょうか。

○委員

私は2年間小学校におりまして、そこで給食を食べていました。

栄養面などを考えると、給食もいいかなと思います。

私の中学校の現状を見ていると、お弁当を持ってきている子と購買でパンを買う子そして業者の仕出し弁当を注文する子の3パターンがあります。

業者の仕出し弁当ですが、注文する子がない日のほうが多く、注文があっても、多い日で、5、6人です。

業者の仕出し弁当について、生徒に聞いてみると、弁当が冷たい、自分の好きなものが入っていないそして注文するのが面倒であるなどの理由でした。

もしも中学校で給食が導入された場合、子ども達の健康面を考えると、栄養のバランスが取れた食事ができることとなります。そして自分自身の食生活を管理する能力を培うということで、食育になると思います。よって中学校給食が実施されてもいいのかなと思います。

もしも中学校給食が導入された場合、未知数の部分があって、クリアしなければならぬことが多いと考えます。

給食の場合は、「準備」、「片付け」が必要です。大阪狭山市の中学校で給食をしていますが、大阪狭山市に聞いたところ、「準備」、「片付け」に要する時間が最低10分はかかるということでした。そして当市において中学校給食が導入された場合、昼休みが10分延長されることにより、終了時間が10分遅くなり、そこからクラブ活動の時間となり、その時間が10分短くなる。

学校給食とクラブ活動のどちらを優先すべきかを考える必要があります。

本校の場合は、冬の終了時間が4時45分で下校時間は5時です。クラブ活動の時間が10分短くなるということになります。

もう一つ大きいことがあります。それは食事の指導です。中学生になると食べたくないものは食べたくないと言います。そのことに対して教師がどのような指導したらいいのかがわからないため、一抹の不安があります。

そのほか管理面についてですが、小学校の場合は、配膳室から教室の前まで給食を運んで、給食時間まで置いている。中学校も小学校と同様に、給食時間まで置いてそのままにしておいていいのかなと思います。中学校の場合は、監視する人を配置しなければならないと思います。

事務的な面では、どんな形で給食を申込みするのか、1ヶ月単位なのか1日ごとなのか、選択姓なので、メニューによって申込数が変わることもあります。

このようにクリアしなければならないことが多いと考えます。

#### ○委員長

今、委員が中学校での現実の課題をいくつか挙げていただきました。

全国的に言えば、中学校給食を実施している市町村では、挙げていただいた課題の中で、クラブ活動と食の指導の課題はクリアしています。

方法を考えれば、このような課題を克服することができると思います。

だからこそ、食育という面で、教師が更に積極的に指導していかなければならないという捉え方も必要になってくると感じました。

管理の面などいろんな面で解決していかなければならない課題がありますが、中学校給食をやる必要性はあります。みなさんの意見の奥底からにあるのは、食育は大事であるということだと思います。

そろそろ、次の展開に移りたいと思います。

食育を推進いく上で、学校給食を生きた教材として、心身のいちじるしい成長期にある中学生に対し、先ほどから言われておられますように、栄養のバランスのとれた給食をすべきということを言われておられます。このような面とは違った面で考えなければならないのは、弁当持参ができない家庭の中学生が現実にいるということにも着目しなければならないということです。

私はこの審議の結論をまとめるという立場にあります。

率直に申しますと、食育という視点を軸に中学校給食を推進していく必要があるのではないのかということで、定義させていただきたいと思います。

推進していく上で、いろんな課題があります。嗜好の問題であるとか、小学生との体格差による食事量の違い、あるいは弁当によって親への感謝の気持ちによって親子のコミュニケーションできる大阪の伝統的な文化を無視できないと思います。

そういうことも視野に入れながら中学校給食を推進していくということでもとめ

ていきたいと考えます。

財政の問題も気になるところございます。

その点に関して、事務局にお伺いしたいと思います。

○事務局

はい、わかりました。

財政のお話をする前に、先ほどの説明の中で、説明不足の部分がありましたので、ここで追加します。スクールランチを実施している市町村では栄養士が関与して、そして国の栄養基準に準じて、栄養士が献立を作っています。

富田林市の葛城中学校では、自校方式で選択制の給食を実施しております。

当該中学校では、自校方式であるため、温かい給食を提供しており、また、ランチルームを設置し、そこでは別のメニューを提供しているため、約50%の高い利用率になっています。

2回目の会議のときもお話させていただきましたが、当市の財政状況ですが、非常に厳しい状況にあります。数字を示してお話することはできませんが、当市の財政調整基金が数年後に底をつくという状況です。よって、行政改革を進め、財政健全化プログラムを策定し、財政の健全化に取り組んでいるという状況でございます。

今中学校給食実施のお話をされましたが、実施するについては多額の費用がかかるため、必然的にあまり費用がかからない給食にしていかなければならないということがありまして、そうするとどのような給食にしたらいいのか、完全給食がいいのか、補食給食がいいのか、大阪府が推奨している選択制のスクールランチがいいのか、また施設面では、自校方式がいいのか、共同調理場方式がいいのか、親子方式がいいのかを検討していかなければならないと考えます。

この会議において、中学校給食を実施することとなっても、財政的な保証がなければできないと思います。

簡単ですが、以上で説明を終わります。

○委員長

ありがとうございます。

今、河内長野市の財政的状況が厳しいとお話されましたが、河内長野市に限らず、全国的にどこの市町村も財政的に厳しい状況にあります。

河内長野市は昔から教育に熱心な市であります。そういうことからしましても、将来を担う子供達のために財政の方から学校給食に対して温かい目で見えていただきたいと思います。

みなさん、今の説明について何かご意見ございませんでしょうか。

○副委員長

以前に小学校では、給食費の滞納者が増えてきているという話を聞きましたが、

そうなる、財政的に厳しくなると思いますが、どうでしょうか。

○委員長

今はどうなっているのですか。

○事務局

当市の小学校給食の滞納についてですが、前年度では滞納率が0.5%でした。率で言えば、少ないと思われませんが、給食費全体の金額が約2億9千万円で、その0.5%ですので、金額にすると146万円になります。

小学校の給食費は食材購入費にすべてを充てます。滞納が増えますと、必然的に給食費を払っておられる方に影響があります。

中学校における徴収の問題ですが、学校運営の点から言えば、解決しなければならない大きな問題であると考えます。

以上で説明を終わります。

○委員長

富田林市の葛城中学校ではどうなっているのですか。

○事務局

葛城中学校では、調理を民間に委託しておりまして、生徒が機械で申し込みをして、その業者さんが注文の受付をするということになっています。

○委員長

滞納の問題は解決されているのですか。

○事務局

葛城中学校では、生徒が申し込みをした時点で給食費を前納するというシステムになっているため、滞納はありません。

○委員長

財政の厳しい状況については市のほうで考えていかなければならないと思います。事務局に確認させてもらいます。

中学校給食について、委員の意見が分かれています。

学校給食法では学校給食実施は努力義務があると規定されています。先ほど言いましたが、大阪府における中学校給食の実施率が約10%であるということで、大変低い率であります。今、大阪府が中学校給食の推進を図っている。河内長野市においても中学校給食の実施について審議しています。

隣接する大阪狭山市、和泉市では中学校給食実施しており、富田林市では進行中であり、本市におきましても、中学校給食を傍観できない状況になってきています。

こういう状況について、市当局としてはいかがお考えなのかを聞きたいと思えます。

○事務局

今ご質問していただきましたが、お答えしにくい部分が多々ありますが、皆さんからいただきました意見の中で、食育の観点、保護者からの観点、弁当を持っていくことができない子供に対する対策、委員長からご指摘のあった学校給食法の主旨を踏まえたとその方向に進まなければならないと思います。

しかし、子供の観点からして、スクールランチが不人気であるという部分もあります。

「弁当の意義」という大阪独特の考え方があって、給食実施にはなじまないという意見もあります。

今までにいただいたいろんな意見を考慮した場合、当市において今のままでいいのかと言われますと、非常に難しい部分があります。

事務局としましては、中学校給食について一步踏み出していきたいと考えます。

中学校給食実施については、財政等の大きな課題が多くあるため、私の独断で言えば、必然的に選択式の給食の実施になるのではないのかなと考えます。

以上でございます。

#### ○委員長

事務局のお話の前に、弁当を持っていくことができない子供に対する対策として、スクールランチ的なものも含めての中学校給食を実施してはどうかというひとつの結論を出しました。

そのことに対して、行政のほうで財政面も含めましてどのようにお考えなのかを確認させていただきましたが、ただ今事務局がお話されたとおりです。

今こういう方向性を示しましたが、委員のみなさんの方で、何か付け加えることはございませんでしょうか。

#### ○副委員長

前回の会議でもお話しましたが、先日見た中学校給食をテーマとしたテレビ番組で取り上げられた市の中に泉佐野市があり、その市では弁当を注文した子どもがそれを受け取りに行き、容器を返却するのに時間がかかり、そのために友達と遊ぶ時間がなくなったという理由で、注文する子どもが1.9%にまで減少したため、スクールランチを廃止したということでした。

先ほど先生のお話の中で、昼食時間が10分伸びることにより、クラブ活動に影響を与えることになるということでした。そういういろんなクリアしなければならぬ問題が出てくるということでした。

泉佐野市のように、スクールランチを始めて、すぐに廃止したとなれば、困ったことになります。

#### ○委員

もしスクールランチを実施した場合、そういう危険性は大きいですね。

泉佐野市でのスクールランチが不人気であるという理由のひとつに、完全給食と

違い、スクールランチのご飯とおかずが冷たいということがあります。

大阪府から補助金をもらってスクールランチを実施した場合でも、不人気のため、委託を受けた業者はやっていくことができなくなるから、スクールランチをやめることになる可能性もあります。

そういうことも含めて考えていかなければならない。

#### ○委員長

安かろう悪かろうということにして、財政上の問題がありまして、限られた予算の中で温かいご飯を提供できる方法などの運営上のことは、任せたらいいと思います。そういうことは要望として記録させていただきます。

教員が生徒を指導することについては、課題があると思います。課題を乗り越えるために、学校と保護者の間のお話を深めながら、そして子供達を育てていくために、これを起爆剤にしてやっていかなければならないと思います。

#### ○委員

学校によってかなり指導の状況が異なります。

学校の規模、子供の状況も違います。

そういうことも考えていかなければならない。

中学校で学校給食を実施することになると、担任だけの指導でなく、学校全員の先生が全クラスについていろんなことを考えて指導しなければならない。それでも、完璧なことができるかどうかの不安が残ります。

給食指導の部分に必ず生徒指導が付いてきます。どのように指導したらいいのかという課題をクリアしていくのに相当な時間をかけて、いろんな体制を組みながら、先生の数も限られており、この人数ではできないかもしれないし、それでもやらなければならないというのは非常に困難なことだと考えます。

#### ○委員長

校長先生としての立場で、持っておられるいろんな情報を生かして、いいものを提供していただきますようよろしくお願いします。

皆さん、ひとつお願いします。

#### ○委員

給食を始めるということで、一番気になることは残飯のことです。

小学校の場合は、低学年の時からたとえばピーマンが嫌いな子にはできる限り早い時点でピーマンが好きになるように指導しますが、高学年になるにつれて好みがはっきりしてきますので、指導するのが難しくなってきます。

世界では餓死する子供が多くいるのに、日本の児童は嫌いな物を残すことによって、残飯が出てきます。

私達も残飯を見たくないし、児童にも見せたくないものです。

中学校で給食を実施するとすると、注文した生徒が給食を残すことはないと思



ますが、調理方法が自分の味覚に合わない場合、給食を残す可能性もあります。ですから、残飯を出さないようないい方法で、実施できたらいいのになあと思います。

○委員長

小学校の時から積み上げてきた嫌いな物を好きになるよう指導してきた部分が中学生になって崩れて、小学校とは同じ指導ができなくなる。

○委員

前向きに考えていくことには反対はしていませんが、こういう会議でいろんな意見が聞けていいのですが、中学校においてピーマンを食べさせるという指導はしんどいことだと思います。

そのような指導をするなら、先に親に指導するべきだと思います。

子供に何か弁当を作ることができるように親を指導するほうがいいし、指導することにはお金もかからないと思います。子育てより親育てをすべきだと思います。

○委員長

食育という範疇で、親育ても併せてやっていく必要があると思います。

○委員

親育ては明日からでも始めることができます。

○委員

スクールランチは不評であるということから、義務教育の一環として完全給食のほうが良いと思います。

委員が言われましたように、栄養士さんをお願いして親の指導もできれば良いと思います。

○委員

委員が言われたとおり、親が変わらなければ子供が変わらないと思います。

たとえ、給食を実施したことにより問題は何も解決しないと思います。

親を教育することは難しいことであると思います。

子供達に美味しい物をお腹いっぱい食べさせてあげることによって、お腹が空いてイライラすることがなくなり、心が穏やかになると思います。

財政難と言われますが、子供を育てるということは大事なことで、次の世代を育てることはその市にとって、お金の換え難いことでもありますので、そのことを分かっていたらいいと思います。

○委員

5年前から、私の学校の学年主任は保護者に弁当を持参させるようお願いしています。よって、弁当を持参する子供が増えて、パンを注文する子供がかなり減少しました。私は家庭科の授業の中で、親が弁当を作ることができない時は子供達に作ることができるようになりなさいと教えていますが、基本は親であるということを考えてほしいと思います。

○副委員長

第1回の委員会でも言いましたが、昭和58年に宝塚市から河内長野市に引っ越してきました。その当時、宝塚市では中学校まで給食がありましたので、河内長野市では小学校も中学校も当然給食があるものと思っていましたが、小学校から弁当持参であることに驚きました。翌年に学校給食センターができましたが、中学校の給食は開始されずに、小学校だけの給食が開始されました。なぜ、中学校の給食をいっしょに作らないのかという理由を聞きますと、大阪府全体が遅れているということでした。

私も中学校の給食は完全給食のほうがいいと思いますが、そうなれば親の意識が変わります。また、反対に、今まで手を抜いていたお母さんが一層楽になるということにもなると思いますが、そのような点をクリアして、市とお母さんたちが協力して前向きに進めてほしいと思います。

○委員長

本日は委員のみなさんから貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

市当局では、完全給食ではなく、親の弁当も必要であるということを考慮して、選択制を視野に入れて、進めていく方向性が見えてきました。

市当局のほうで、次回までに、本日議論したことを基にしてまとめていただきたいと思います。

次回の委員会は4月下旬を予定しており、日程調整をさせていただき、後日、事務局より通知していただきます。

本日はありがとうございました。

○事務局

ご審議していただきまして、ありがとうございました。